

変わるもの、変わらないもの —教育の不易と流行—

一学期の最大行事である小中学部運動会と高等部体育祭を予定通りに実施をすることができました。心配された天気でしたが、奇跡的に晴れて、練習してきた成果を思う存分に発揮することができた二日間でした。

また、五島分校の小中学部は毎年福江小学校と合同で運動会を実施していますが、保護者や地域の方々からたくさんの声援を受けながら、練習の成果をいかに発揮することができました。

本校も五島分校も、児童生徒一人ひとりが最後まで諦めずにゴールを目指す徒競走や笑顔いっぱいのダンス、仲間と協力しながらバトンを渡すリレー競走など、全ての競技に見ごたえがあり、子供たちの頑張り先生方の指導に改めて感謝した三日間でした。

先週は、令和8年度第78回長崎県高等学校総合体育大会が実施されました。本校、五島分校ともに陸上部生徒が二名ずつ参加をし、開会式には本校の陸上部以外の生徒も参加をしました。短期間の練習ではあったものの、先生方の指導と集中した練習のお陰で、生徒たちの腕の振り大きく、前を見据えて堂々と行進する姿は大変立派でした。

県下の高校生が一堂に会し、行進やアトラクション、選手宣誓など、今日を目標に努力してきた様子を観客席から見学しながら、「教育の不易と流行」という言葉が頭に浮かびました。知・徳・体のバランス、人間性の育成、協働する力、努力を通じた成長など、時代が変わっても「人を育てる(人間形成)」のは教師(人間)の仕事であり、ロボットやコンピューターにはできない、正に「教育の不易」の部分だと思います。逆に、昨年度から開会式が体育館での実施となったことや、部活動の指導方法・指導内容が昔とは大きく異なっていることなどは「教育の流行」と言えるのではないのでしょうか。特に指導については、もはや昔のような「根性論」は通じず、私たちが経験してきた「鉄拳制裁」などの行き過ぎた指導は通用しません。つまり、アップデートしていかなければならないということです。

教育には、変わらない「本質的な価値」と、時代とともに変化する「方法や形」があります。どちらも大切にしながら、これからも子供たちの成長を支えていきたいと、改めて思った一日でした。

